
デリヘル嬢が我が家にやって来た

zens

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デリヘル嬢が我が家にやって来た

【Nコード】

N4609G

【作者名】

zens

【あらすじ】

ある中年に差し掛かった男の家に、呼んでもないデリヘル嬢がやって来た。

「こんばんわー」

こんな時間に誰だと思ったら、1人の女がドアの向こうに立っているのがインターホンから見えた。

妙齢の女性らしく、若さはないが落ち着きのある低い声だ。

俺は、つい最近母を亡くした親父と2人暮らしをしている。

言っておくが、俺はデリヘルなんて頼まない。

きっと親父が頼んだに違いない。

60を超えた親父だが、未だに性欲だけは溢れに溢れている。

最近賢者となりつつある俺からすれば化け物そのものだ。

「あのお、いらっしやいませんかー？」

インターホン越しに、デリヘル嬢の声が聞こえる。

しかし、インターホンからでは顔がよく見えない。

この女、わざと顔の見えない位置に立っているのはないだろうか。

その証拠に、胸元が大きく開いた服はよく見えるし、谷間も見える。

なかなかスタイルはいいようだ。

俺は少しばかり興味を持った。

玄関へ行き、そつとその女の顔を見てみよう。

もし、いい女だったら……。

ほんの少しだけ俺は期待して、ドアについている小さな穴から外を覗いてみた。
どれどれ……。

期待に胸膨らみ、目もどことなくいつもよりも見開いているようだ。その女の姿を目に焼き付けようと。

だが、俺はすぐに見るのをやめた。

首を振って家の中へ駆け込む。目に焼き付いて離れない。
あれは、女じゃない。男だ。

そうとしか思えない奴が外に立っていた。

「チエンジツ！」

俺はカー杯インターホンに向かって叫んだ。
すると、女は片言の英語で言った。

「イエス、ウィー、キャント」

できねえのかよ。

俺は、玄関まで走るとその勢いのままドアを思いきり蹴った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4609g/>

デリヘル嬢が我が家にやって来た

2011年1月8日21時19分発行